



◆ アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。
◆



今月のテーマ

テクンペとホシ(手甲/脚絆)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)



衣

服をはじめ、アイヌ文様が施される服飾品の多くは正装の際に身に着けるものですが、中には頭巾や手甲、脚絆といった労働用、防寒用として身を保護するものにも刺繍などの文様が施されます。

テクンペやチカミ「テ」と呼ばれる手甲には二つの形があり、二つは手の甲と手首を覆うもので、中指を通す紐を輪状に縫付け、手首部分を

細で巻き結ぶもの。無地のものから美しい刺繍文様が施されたものがあります。もつ二つはミトンの手袋の指先部分を切りとった形で、拇指部分が独立しています。拇指の付け根から掌部分に細かく刺し縫いをする

ことで強度を高め、布を数枚重ね合わせることで保温効果も高くなります。甲部分には色糸などで刺した幾何学文様が施されたものもあります。

ホシと呼ばれる脚絆の形は、膝下から足首まで脛をすっぽりと包むように筒状に縫い合わせたものと、脛周りの太さに合わせた平布を細紐で巻き結んで脛に装着するものがあります。素材は木綿布やアットウシ(樹皮布)のものが多く、刺繍や色布で文様が施されるものから実用的な刺し縫いが施されます。



イラスト/山丸ケニ

以前、ウポポイのポスターを見て「アイヌが正装するときには手甲や脚絆は付けない。」との指摘を受けたことがあります。日常的にアイヌ舞踊を見てきた私には、手甲や脚絆姿はある意味、当たり前でしたので少し戸惑いましたが、文献等の手甲や脚絆の資料を確認すること。絵図や古写真では多くは無いが装着しているものが確認でき、現存資料では文様のある脚絆は多い

が手甲は少なく、文献では「手甲は儀礼では絶対身につけない」、「美しい刺繍をしたおしゃれ用がある」、「正装用の脚絆は布で作り刺繍を施す」、「労働用の他に…祭祀用のものがあり美しく刺繍してある」の記述などから正装用の手甲や脚絆もあることが確認できました。「華美に着飾るのは観光用」との意見もあり、時代的な背景に

よりその利用が変化しているように思います。私も、カムイ(神)に祈るとき手甲はしないと聞いており、あくまでポスター用と考えていましたが、示唆いただいたことで、改めて情報を発信する上で必要なプロセスを確認することができました。ソノノ イヤイライケレ(本当にありがとございました)!



今回のテーマは「アエキモヌバ(葬式)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



イランカラブテ
「ごんにはち」からはじめる。

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。